



広報

たたらぎ

多良木ひ



2017

3

No. 578

新町長に吉瀬浩一郎氏就任 2ページ

連載 町の日本遺産 第7回 久米治頼神社 4~5ページ

姉妹町児童交流【南幌町訪問編】 6~11ページ

新町長に吉瀬浩一郎氏就任



右：町民のみなさんと職員に迎えられ初登庁
左上：職員から花束が贈られました
左下：就任式での挨拶のようす



任期満了に伴う町長選挙が2月5日に行われ、吉瀬浩一郎氏（69歳）が当選され、2月20日に就任式が役場3階委員会室で行われました。

当日は、午前8時に役場庁舎玄関前に到着された吉瀬町長を町民と職員が拍手でお迎えし、花束が贈られました。

就任式では、松本総務課長の歓迎の挨拶のあと、吉瀬町長の就任挨拶がありました。

吉瀬町長からは「基本的に役場はサービス産業だと思います。一日の終わりには、住民の方々に挨拶できたら、皆さんが思っておられるサービス産業の一員としての考え方と照らし合わせてどれだけサービスできたら是非考えてほしい。住民の方々はいろいろな相談があつて役場に来られると思う。昨年の都知事選の標語に『困った』が希望にかわる町』というのがありました。みなさんと一緒に多良木町を良い行政機関にしていきたい。」と抱負と訓示が述べられ閉会、就任式を終了しました。

就任のあいさつ

多良木町は、昭和30年をピークとして人口は減少を続け、高齢化率は上昇を続けています。町の財政状況は歳出の多くを義務的経費が占めるという厳しい状況下にあります。

しかし、私たちは悲観することなくこのような現実を受入れることから出発し、そのうえで、どうすれば若い人が町に定住し高齢者を支えることができるのか、人が集まる魅力的な町にできるのかを共に真剣に考えなければなりません。

本町は清流球磨川をはさんで息づく豊かな森と里山、点在する多くの文化財に恵まれています。この町で育まれた上相良の歴史と伝統を受け継ぐ日本遺産を活用し、特産品などと併せ外部に発信するなど、人を呼び込める魅力ある町をつくるための方法論を明確に提示できるのか、今まさに本町の総合力が問われています。

私が目指す「想像力あふれる政治」とは、政策目標を立て、情報を公開するとともに住民の皆さんに対する説明責任を果たし、皆さんの理解と協力を得ながらその意志の集合体を数値化し、共に知恵を出し合い、具体的に何事かを成し遂げていくものであります。

「覚悟を持ってこの町に住み続ける人たち」のために、住民の皆さんと共に考え、皆さんの共感を呼ぶ意識改革と制度改革を行う決意をもって、就任のご挨拶いたします。

平成二十九年三月吉日

吉瀬 浩一郎

松本照彦町長任期満了に伴い退任

3期12年間お疲れ様でした

退任のあいさつ

「健康で明るく、住みよい、誇り
 のもてるまちづくり」を掲げ町政
 に携わらせていただき、大変お世
 話になりました。かえりみまずと、
 健康応援隊を設立し健康に関心を
 持っていたいただき、健診の大事さを
 地域に広めてもらっています。毎
 朝、就業前に全職員が元気に「お
 はようございます」と挨拶を交わ
 しながら掃除、ラジオ体操で1日
 のスタートを切るのが日課となっ
 ており、ありがたいことだと思い
 ます。

一番残念だった事は、県立多良
 木高校存続について、町人口の三
 倍を超える高校存続を願う署名が
 寄せられたにも関わらず、その熱
 い思いが届かなかった事です。
 一方、郡市出身者だけの多良木
 高校野球部が県大会優勝を成し遂

げました。その勝利を選手と大勢
 の応援団が一緒になって喜び合っ
 た光景は生涯忘れられません。ま
 た、郡市初の大相撲十両昇進の力
 真関、箱根駅伝の1区を走った西
 選手活躍をはじめ、英語暗唱大
 会上位入賞の中学生、姉妹町南幌
 町との交流で絆を深めている小学
 生等多良木町には素晴らしい子ど
 も達が育っています。

これからも新町長のもと、素晴
 らしい町になることを期待し、12
 年間のご協力・ご支援に感謝申し
 上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。
 ありがとうございます。

平成二十九年二月吉日

松本 照彦



▲職員に見送られる松本町長



▲退任式で挨拶をされる松本町長



2月18日をもって任期満了を迎えら
 れた松本照彦町長の退任式が、2月17
 日役場3階委員会室で行われました。
 総務課長の送辞の後、松本町長から退
 任の挨拶がありました。

松本町長からは、3期12年間の町政
 を振り返り、「あつという間の12年間
 だった。この12年間の中で、毎朝の清
 掃や花火大会後のボランティア清掃を
 始め、町のために良いと思ったことを
 積極的に提案し、また実践していただ
 き感謝している。町や町民のために良
 いと思ったことは上司であっても提言
 し、新町長のもと、体調管理に気をつ
 け、チームワーク・連携により能力を
 発揮し、素晴らしい町にして欲しい。」
 と職員に対して激励の言葉がありまし
 た。また、自身の経験から健診の重要
 性を感じておられた松本町長は、最後
 に『健診の推進』をはじめ、『ゴミの減
 量化』と『えびすの湯の利用』について
 お願いの言葉を残されました。退任の
 挨拶の後は、職員から松本町長へ花束
 が贈られ退任式を終わりました。

3期12年間、本当にお疲れ様でした。

文化庁が2015（平成27）年に創設した「日本遺産」第1号として、
熊本県では唯一、人吉球磨が認定を受けました

広報たらぎでは、多良木町に関する日本遺産の構成文化財をシリーズでお伝えしていきます



相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ里～

※人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良700年」と称される長きにわたる統治を行いました。その足掛かりとなったのが多良木です。

この「相良700年」とは、相良氏が人吉球磨を領知したとされる鎌倉時代初めから、明治時代の初めまでのおよそその期間です。

第7回 久米治頼神社

今回紹介する日本遺産の構成文化財は、久米治頼神社です。

この神社はその名前の通り、相良治頼を祀った神社で、久米の吉祥院勘代寺の脇道を抜けた今山の中腹にひっそり佇んでいます。神社本体は、永禄9年（1566）に建造、中世まで遡るもので、その歴史的価値は非常に高いものです。

御霊信仰

昔の日本では、天災や疫病の発生は、うらみを持つて死んだり、災害などにより思いがけず亡くなった人間の「怨霊」によるものだと信じられていました。御霊信仰とは、その「怨霊」を鎮めて祟りをまぬがれ、平穏と繁栄を願う信仰のことです。

この御霊信仰の神社で一番有名なものは、菅原道真公を祀る太宰府天満宮（福岡県太宰府市）が挙げられますが、多良木町の久米地区にも、御霊信仰によって建てられた神社があります。それが、久米治頼神社です。

相良治頼という人物

久米治頼神社は、「相良治頼」という人物の怨霊を鎮めるために建てられました。

相良治頼は、永正11年

(1514)に八代で生まれました。成長すると再従兄にあたる人吉藩16代当主相良義滋に仕え、八代の土地を管理する職につきました。

治頼は、修行によって身に付けた不思議な力をもった武将として恐れられるとともに、優秀で多くの人々から信頼され、慕われていたと伝えられています。

しかし、優秀であるがゆえ、相良家の家臣の中に義滋への謀反を治頼にそそのかす者も現れました。天文14年(1545)、ついに治頼は40人の部下をつれ、謀反を企てることを決意しました。

しかし、そのことが義滋に知られたために、八代→人吉→真幸(宮崎県えびの市)→多良木へと移動します。祖父相良頼泰ゆかりの地での再起を計った治頼でしたが、多良木にいること

も義滋の知るところとなり義滋は、兵を多良木に向かわせました。劣勢の治頼勢はその戦いで過半数が討死したとのことです。

その後、治頼は久米→槻木→日向(宮崎県)→豊後佐賀関(大分県)へと逃げのび、豊後へ移住しますが天文15年(1546)5月に33歳という若さで亡くなりました。

ほどなくして義滋も亡くなり、17代当主晴広は治頼とその母の霊を祀らせるため、天文18年(1549)に治頼神社を5社造らせました。今回ご紹介する久米治頼神社のほか、

・多良木新山八幡神社
・多良木東村新山八幡神社(のち古多良木の池王神社に合祀)
・あさぎり町宮原中島の新山八幡神社
・錦町一武八幡宮
の4社があります。

久米治頼神社は、御霊信仰のもと逃走先となった久米に建てられた神社です。その久米治頼神社には、「木造男女神坐像」という相良治頼夫妻の像があります。



木造男女神坐像(町指定文化財)

⑤あさぎり町の深田大王神社(のち深田阿蘇神社に合祀)です。いずれも相良氏が滅ぼした平河氏の怨霊鎮魂のために建てられたものです。

「700年」の歴史の裏に

「相良700年」の歴史は、必ずしも平和というわけではありませんでした。治頼のような謀反を起こす者への対応と、その怨霊を鎮めることで平穏と繁栄を願ったのです。

700年という長い間、相良氏が人吉球磨を統治した背景には、相良氏に逆らった者たちの物語がありました。

ちなみに、人吉球磨には他にも御霊信仰によって建てられた神社があります。それは、

①山江村の山田大王神社(国重要文化財、日本遺産構成文化財)

②多良木町黒肥地の横瀬大王神社

③錦町の荒田大王神社

④錦町の平川大王社

【参考文献】

- ・球麻外史
- ・嗣誠独集覧
- ・南藤蔓綿録
- ・八代日記



ただただ真っ白なその大地に目を奪われ、幻想的な雰囲気、時間に忘れてしまいそうになりました。

なんぼろちょう

姉妹町 北海道南幌町との児童交流 【友達との再会！～南幌町訪問編～】

北海道南幌町と多良木町の関係は、1999年の第54回国民体育大会（くまもと未来国体）の折、北海道代表の南幌町野球チームを民泊受入先に黒肥地1区の住民が手を挙げたことから始まります。地域の方々が育まれてきた交流が縁となり、北海道南幌町と多良木町は、相互の友好親善と理解を深め、互いに協力し、教育文化・産業振興等あらゆる分野での交流を図り、ともに繁栄することを念願し、平成22年2月2日に姉妹町締結式を行いました。

以降、毎年小学校6年生を対象とした児童交流学习事業が行われており、また、互いの町の祭りには特産品の販売を相互に行う物産交流、職員交流、住民の研修旅行に係る補助金制度と、その交流の幅は広がりを見せています。

今回は昨年夏に引き続き、2月4日から7日の3泊4日で行われた児童交流（南幌町訪問編）についてお伝えします。

【1日目：結団出発式】

結団出発式では、恒松団長（久米小学校長）の挨拶のあと、中川愛那さん（多良木小）が決意表明を述べました。夏の交流から約半年。友達との再会や初めての雪国訪問に子どもたちは期待いっぱい笑顔で家族に見送られ、南幌町へ向け出発しました。

【北海道へ到着】

熊本空港を出発し、羽田空港で乗り継ぎ新千歳空港へ到着しました。

一歩外へ足を踏み出し、多良木町と南幌町の気温差を体感しました。

【アイスクャンドル点灯式】

新千歳空港から約30分、南幌町に到着しました。

翌日行われる南幌町の冬まつり「ジッピーウィンターフェスティバル」の前夜祭点灯式会場である、ふるさと物産館「ビューロー」前では、交流児童やその家族、関係者から温かく出迎えていただき、氷で出来た「とろうろう」に明かりが灯されると暖かな柔らかな光に癒されました。



再会の喜びいっぱいの笑顔で写真撮影



点灯式をお手伝い。アイスクャンドルの明かりが素敵でした。

【歓迎レセプション】

ふるさと物産館「ビューロー」で行われた歓迎レセプションでは、南幌町の三好町長と南幌小学校の岡田校長先生による歓迎のご挨拶のあと、児童を代表して大館香珀さん（南幌小）から歓迎の言葉をいただきました。



訪問の言葉を述べる、恒松 大喜さん

多良木町からは、恒松団長の挨拶と児童を代表して恒松大喜さん（多良木小）が、訪問の言葉を述べました。



各小学校からそれぞれ1名ずつ、計3名で多良木町を紹介しました。

また、多良木町児童から南幌町の皆さんへ自身が通う小学校と多良木町を紹介し、歓迎会は終了しました。歓迎会後はそれぞれ民泊家庭へ向かい、各家庭で多良木町との生活の違いを感じました。スキーをして過ごした子や、初めてジンギスカンを食べた子など、北海道ならではの貴重な体験ができました。

【2日目：札幌市内見学】

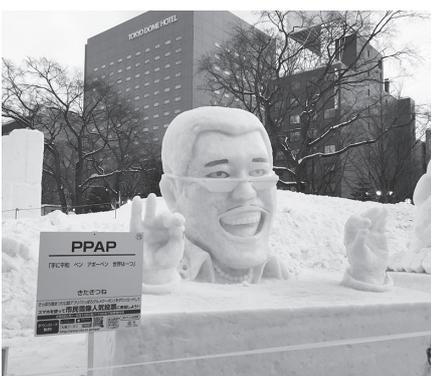
昼食までを各家庭で過ごした子どもたちは、午後2時に生涯学習センター

「ぼろろ」へ集合し、札幌市内へ。札幌時計台や、テレビ塔、北海道庁旧本庁舎（通称「赤レンガ」）、札幌雪まつり会場を見学しました。



赤レンガを背景に記念撮影。夕暮れの赤レンガはライトアップされて美しかったです。

雪まつり会場では、毎回、時代を象徴する雪像が作られています。今回、一番目を引いたのは、「PPAP」が大ヒットしたピコ太郎雪像で、雪で作ったとは思えないほどそっくりでした。



「PPAP」ピコ太郎雪像

【ママ、Sビュッフエ】

札幌市内から戻ると、南幌町児童のママさんたちお手製のご馳走が並んだ「ママ、Sビュッフエ」で、夕食です。北海道産の海産物をふんだんに使った海鮮丼が並び、子どもたちはおいしそうに食べていました。



手作りのご馳走が並ぶテーブル



好きなものを好きなだけ。
どれも美味しそうで全部食べたい！

夕食会場から戻り、なんぼろ温泉へ

宿泊。南幌町は海に面した町ではありませんが、なんぼろ温泉は、しょっぱい塩味を感じるナトリウム塩化物強塩泉です。冷えた体が温まりました。

【3日目：スキー体験】

この日は朝から隣接する北広島市で、子どもたちが楽しみにしていたスキー体験をしました。

飲み込みが早いとほめられた子どもたちは、ケガもなく、コツを掴んで長い時間自由に滑ってスキーを楽しんでいました。



だんだん上手に滑れるようになりました。

【南幌小学校全児童との交流】

スキー体験を終えた一同は、南幌小学校に向かい、6年生の教室で給食を

いただきました。給食後の昼休みの時間は、校内の見学や体育館でスポーツをして遊びました。



この日のメニューは、「塩野菜ラーメン」と「ポテト味噌がらめ」と「ゼリー」でした。

昼休みの後は、毎月1回行われる全校集会に参加させていただき、全校児童とゲームを通して交流しました。南幌小学校の皆さんからとても温かい歓迎を受けました。



南幌小学校の全校児童とレクリエーション。とても盛り上がりました。

【スノーモービル体験】

全校集会の後、交流児童は校庭に移動し、スノーモービルや、バナナボードで雪面を走り、タイヤチューブで校庭に作られた滑り台を滑りおろる体験をしました。雪国ならではの体験に、寒さも忘れて大声を上げて楽しんでいました。



スノーモービルかっこいいでしょ？

南幌町の友達と一緒に。スリリングで楽しい滑り台でした。



【食事会・交流会】

最後の夜となるこの日は、南幌町児童もなんぼろ温泉に宿泊しました。南幌町児童と一緒に冬の交流最後の夕食を共にいただきました。

この日は、久米小の古川友愛さん、南幌小の高橋奏稀さん、同じく相原瑞香さんが2月生まれということで、この3人のお誕生日を祝うサプライズもありました。



みんなで一緒に乾杯！

また、保護者も交えてレクリエーションを行いました。

5チームに分かれて行ったゲームでは、南幌町と多良木町に関連したゲームやクイズが出題され、子どもたちは熱心に取り組んでいました。



南幌町の児童と多良木町の児童でチームを組み、クイズや与えられた課題に挑戦しました。



最後の夜、おしゃべりが尽きることはありませんでした。

【4日目：お別れ会】

南幌小学校音楽室で行われたお別れ会は、南幌小の高木来希さん、高橋奏稀さんが司会を務め、南幌町の三好町長と中鉢教育委員長からお別れのご挨拶をいただき、多良木町からは恒松団長より謝辞を述べました。

また、南幌町児童を代表して榊原愛加さんからお別れの言葉をいただき、多良木町児童を代表して西季三葉さん（多良木小）が、お別れの言葉を述べました。



お別れの言葉を述べる、西季三葉さん

お別れ会終了後、南幌小学校の玄関で記念撮影をし、南幌小6年の児童の皆さんと、お世話になった保護者の方々や関係者の皆様に見送られ、南幌町を出発しました。



バスを見送る大勢の南幌町の方々

【解団報告式】

4日間を無事に過ごした多良木町訪問団の子どもたちは、北海道のお土産と思いを両手いっぱい抱えて、多良木町へ帰ってきました。

解団報告式では、恒松団長による報告と、柿山穂積さん（黒肥地小）の感想発表のあと、松本町長から労いの言葉をいただき、解団報告式を終えました。

こうして、7回目の児童交流学習はあっという間に終わりました。今年の夏には、また新しい南幌町訪問団がやってきます。両町の更なる交流のために、これからもご協力をよろしく願います。

* 次のページに訪問児童の感想文を一部抜粋して掲載しております。



解団報告式で感想発表を行う柿山穂積さん



(左) 多良木小 中川 愛那さん
(右) 南幌小 さかきばら まなか 榎原 愛加さん

多良木小 中川 愛那



(左) 黒肥地小 飯田 華鈴さん
(右) 南幌小 いいだ かりん かした すずか 梶田 涼花さん

黒肥地小 飯田 華鈴



(左) 久米小 古川 友愛さん
(右) 南幌小 ふるかわ りのめ ながせがわ なつき 瀬川 夏生さん

久米小 古川 友愛



(左) 多良木小 西 季三葉さん
(右) 南幌小 にし きみは におだて こほく 大館 香珀さん

多良木小 西 季三葉



(左) 久米小 みやはら りずむ 宮原 莉朱夢さん
(右) 南幌小 あいはら みずか 相原 瑞香さん

久米小 宮原 莉朱夢

私が、今回姉妹町児童交流学習事業で学んだことが三つあります。一つ目は、環境のちがいです。雪がめつたに積もることのない多良木町とは違って、南幌町は雪が一メートル以上も積もつたということがあります。私達が訪問した間は、雪が降りませんでした。その前は吹雪で前が見えないほどだったと聞き驚きました。家も寒さをしのぐため、ドアが二重になっていました。

二つ目は、民泊体験です。私がお世話になった榎原さん家では、愛加ちゃんと書道リレーをしました。お互いの名前にある「愛」の字を一面ずつ交互に書きました。一人で書くときより字のバランスをとるのが難しかったです。そして、南幌町の冬まつりに連れて行ってもらいました。初めて乗ったバナナボートとスノーモービルはとても楽しかったです。交流団員以外の友達とも仲良くなりました。

三つ目は、南幌小学校の皆さんとの交流です。五校時の集会に参加させていただき、多良木町の紹介をしたり、みんなでゲームをして楽しい思い出ができました。

これからも南幌町の友達と連絡を取り合い、いつかまた再会できることを願っています。

私は、姉妹町児童交流学習に参加できて良かったと改めて思いました。夏に南幌町から多良木町に来られて初めて会った時は心臓がはじけそうなくらいドキドキしましたが、だんだん打ち解け、最終日には別れが悲しくて泣きそうになりました。

でも、時が経つのは早く、あっという間に二月になっていました。初めて九州から出る喜びと初めて飛行機に乗るドキドキがありました。南幌町に着くとたくさんの方がお出迎えをしてくれました。久しぶりに友達と再会してとてもうれしかったです。

民泊家庭の涼花さんのお家では北海道ならではの過ごし方をいただきました。たくさんお話しをしてとても楽しかったです。翌日は初めて屋外でスケートをしました。

三つ目はスキー体験が楽しかったです。また、南幌小学校の五校時に参加させてもらったことやスノーモービル体験をした事は忘れません。四日目のお別れ会では、バスから手を振る時とても悲しくて涙が出そうになりました。

多良木町と南幌町での文化・方言のちがいをお互い学び合うことができました。心に残る体験をさせていただきます。ありがとうございます。

私は、南幌町の交流友達である夏生ちゃんに会えるのがとても楽しみでした。夏生ちゃんは明るくて親しみやすい性格の女の子です。最初は緊張していたけれど、すぐに友達になりました。

私たちの乗ったバスが南幌小学校に到着すると、夏生ちゃんたちが笑顔で迎えてくれました。私は久しぶりに夏生ちゃんに会え、とても嬉しい気持ちになりました。

この交流で楽しかったことは、民泊とスキー体験です。民泊では珍しい物も見せていただきました。四十年前以上前からある木で作られた百人一首です。木でできているんです。本当にびっくりしました。

スキー体験は初めてでした。丁寧に教えてくださったおかげです。あれになることができました。何回すべってもあきませんでした。また北海道に行つてスキーをしたいです。

訪問を通して、家族の大切さを感じました。家族がいたからできた体験です。また、夏生ちゃんから北海道の生活やスキーを教えてくださいました。この訪問での大経験をこれからの学校生活にいかしていきたいです。

私は、夏と冬の交流事業を通していつもは体験できないことをたくさん経験することができました。その中で最も心に残っていることが四つあります。

一つ目は、夏の球磨川ラフティングです。最初に高い岩の上から川へダイビング。川の中へ飛び込むまでの時間がとても長く感じられました。激しい流れの中をボートで下ると予想以上に激しく揺れ、びっくりしました。

二つ目は、初めて飛行機に乗ったことです。上空からの風景は全てが小さく見え、北海道の雪景色はどんなだろうと思いつつ北海道へ向かいました。

三つ目は、香珀さんの家での体験です。家の前でスノーモービルに乗りました。息がきかないほどのスピードでびっくりに乗りました。初めてジンギスカンを食べた時、キタキツネを見かけたり、北海道の大自然を感じる事ができました。

四つ目はスキー体験です。初めての体験でしたがコツもつかめて上手に滑ることができました。冷たい風が顔にあたり気持ちよかったです。姉妹町交流事業としての交流は終わりましたが、これからも連絡を取り合つて交流を深めていきたいです。

南幌町訪問での楽しかったこと、学んだことを報告します。

楽しかったことの一つ目は、民泊です。北海道に行った日に民泊家庭へ行きました。夕食に食べた焼肉はジンギスカンでした。かにも自宅で食べるよりも美味しく感じました。

二つ目は、雪まつりです。雪でピコ太郎やドナルドダック等たくさん雪像がありました。中でも一番驚いたのは大きなお城です。ライトアップされ、とてもきれかったです。

三つ目は、スキー体験です。最初は全然すべれなかったけど、練習していくうちにすべれるようになったら、南幌小の友達と一緒にすべろうと声を掛けてくれて、一緒にすべつたらさらに上達していききました。

北海道に行つて私が学んだことは、友達の大切さ、友達との協力です。多良木町の友達と一緒に訪問することで心強かったし、南幌町に友達がいると思うと安心して訪問できました。友達は本当に大切だと感じました。スキーも友達と協力して練習したおかげですべれるようになったし、これからも友達と協力して様々な課題をクリアしていきたいです。

今回の貴重な経験を学校生活や家庭生活で活かし、北海道の友達ときずなを深めていきたいです。

黒肥地小 柿山 穂積



(左) 黒肥地小 柿山 穂積さん
(右) 南幌小 高橋 奏稀さん

ぼくは、この四日間の南幌町訪問で大変貴重な経験ができました。その中から三つ紹介します。

一つ目は、事前の準備や活動内容の確認、寒さ対策など、自分の立場を自覚した行動ができました。

二つ目は、一面真っ白な銀世界におどろき、雪国の楽しみ方を知ることができました。スノーシュー体験ではインストラクターの方が優しくすべり方を教えてくださり、高橋そうき君のおかげで初めは不安だった僕も最後はストックを使わずすべれるようになりました。また、雪まつりの会場ではたくさんの雪のちようこくが見られて感動しました。

三つ目は民泊です。そうき君の家はすごく暖かく、こたつがないことにビックリしました。そして優しいご両親でも安心できました。美味しいごちそうを食べながら、たくさんお話ができたことが一番の思い出です。

黒肥地小 嶋田 尚一郎



(左) 黒肥地小 嶋田 尚一郎さん
(右) 南幌小 吉野 晴哉さん

ぼくは、この四日間の思い出が四つあります。

一つ目は、雪祭りに行ったことです。トランプ大統領がPPAPをしている像があり、おもしろかったです。色んな雪像がありました。一つ一つ作りとは思えないほど上手にできていました。

二つ目はスノーモービルに乗ったことです。とても速くて怖かったけど、だんだん楽しくなりました。スノーモービルに引つ張られたバナナボートにも乗りました。スノーモービルが免許なしで乗れるのを初めて知りました。

三つ目はスキーです。初めはすべれるか心配でした。初めはうまく止まることもできませんでしたが、練習を繰り返して「もう一人で滑っていいよ」と言われ嬉しかったです。

四つ目は、はるや君の家に泊まったことです。ごちそうが出てとてもおいしかったです。晩ご飯の後は、家の周りを散歩しました。雪で歩きにくかったです。朝は近くの公園で雪そりをしたり、埋もれたブランコを乗れるようにしたり楽しかったです。

この四日間は、僕の一生の思い出になりました。

久米小 北崎 友貴



(左) 久米小 北崎 友貴さん
(右) 南幌小 村上 大和さん

ぼくが南幌町での様々な体験を通して楽しかったことや驚いたことが五つあります。

一つ目は、食べ物のがいです。熊本県ではあまり食べないジンギスカンや、とび子などを食べました。とび子とはイクラより小さい粒でトビウオの卵ということを知りました。

二つ目は、方言のちがいです。熊本県では言葉の最後に「バイ」とつけるけど、南幌町では言葉の最後に「さ」と言うので、冷たいことを「冷やっこ」と言うので、地方によって方言がちがうんだなと思いました。

三つ目はスキーです。初めは全然できなかったけど、だんだん上達して南幌町の人達と一緒にすべれたのが良かったです。

四つ目は雪遊びです。南幌町の校庭でスノーモービルに乗ったり、運動場に作られたすべり台をタイヤチューブですべったときはとてもスリリングでした。

五つ目は、雪まつりです。トランプ大統領やピコ太郎の雪像はどれも迫力満点でした。

ぼくは様々な体験を通して協力することの大切さを感じ、一生の思い出になりました。

多良木小 佐藤 志希



(左) 多良木小 佐藤 志希さん
(右) 南幌小 坂上 幸一さん

ぼく達は夏と冬に多良木町と南幌町の相互交流を行い、お互いの町の文化や歴史を学びました。夏、坂上幸一君が多良木町に来て多良木町の文化や歴史を学び、ラフティングやそうめん流しを共に体験しました。幸一君が一番驚いていたことは、北海道と熊本の水遊びをとても楽しんでいました。フルトレインや多良木高校セミナーハウスでの活動で深まったさずなは強く、彼が南幌町へ帰ってからの半年間は早く再会してまた一緒に遊びたいと思う日々でした。

年が明けてようやく待ちに待った二月。人生初の北海道訪問です。今度は逆に北海道の寒さを肌で感じる事ができましたが、外の寒さに対して部屋の中は暑く、寒い北国で暮らしたらかこそ暖房設備が整っているのだなと感じました。南幌町訪問で特に心に残ったことはスキー体験です。時間忘れて夢中になれました。それにも増して半年ぶりの友達との再会が一番の喜びでした。今回の交流を通じて得た経験をいながら社会のために役立てたいです。また、幸一君と再会できる日を楽しみにしています。

多良木小 恒松 大喜



(左) 多良木小 恒松 大喜さん
(右) 南幌小 高木 来希さん

北海道南幌町に行つて心に残っていることを三つ紹介したいと思います。

一つ目は、北海道の雪の多さと気温がとて低いことです。雪は足が埋まるほど積もっていて驚きました。どこでも雪玉や雪だるまがすぐ作れるので、とてもおもしろかったです。また、気温がとて低く外はスキーウェアを着用しないと体が冷えましたが、室内はとて暖かく半袖でいられました。

二つ目は、スキーとスノーモービル体験です。初めてのスキーは歩くことさえ難しくなりましたが、先生に教わり上手になりました。南幌町の児童はみんな上手でジャンプしたりしていてすごいと思いました。また、スノーモービルのスピードが速くてとても面白かったです。スノーモービルで引つ張られたバナナボートから落ちそうになったこともいい思い出になりました。良い経験ができて良かったです。

三つ目は、友達との再会の喜びです。夏以来なので嬉しい気持ちがいっぱいありました。来希君は夏に会った時よりも身長が高くなつていてビックリしました。これからも手紙や電話、メールなどを通じて仲良くしていきたいです。